

講義名称	子どもと言葉	担当教員名	鈴木 まゆみ
科目群	専門科目 (M) CA1・DI1・DI2		
科目区分等	保育の内容・方法に関する科目	単 位	1
対象学年次	2年・春学期	ナンバリング	

授業のキーワード	子ども 言葉 児童文化財 保育実践
授業の概要	領域「言葉」の指導の基盤となる基礎知識・技能を身に付けます。また、子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする保育や保育者の役割について理解し、児童文化財の魅力や意義、活用法の実際を学びます。
期待される学習成果 (目標)	人間にとっての言葉の意義や機能について知り、説明できるようになります。言葉に関わる感覚を豊かにするための方法について理解し実践できるようになります。児童文化財の基礎的な知識と意義を理解します。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業に見通しをもって臨めるよう、講義内容、評価方法、準備物等について理解します。
2	「言葉」の育つみちすじ1	乳児期の「言葉」の育つ過程に着目し、子どもがどのように言葉を獲得するのかを学びます。
3	「言葉」の育つみちすじ2	幼児期の「言葉」の育つ過程に着目し、子どもがどのように言葉を獲得するのかを学びます。
4	「言葉」を育てる遊び1	紙芝居、絵本等の児童文化財に触れ、それらの魅力や意義について学びます。
5	「言葉」を育てる遊び2	保育現場で活用する児童文化財の研究に取り組み、教材の制作に取り組みます。
6	「言葉」を育むための保育者の役割1	話し合いやけんか等の場面等における保育者の役割について学びます。
7	「言葉」を育むための保育者の役割2	保育園、幼稚園等における言葉をめぐる問題についてグループ討議に取り組みます。
8	指導計画と「言葉」1	乳幼児期の言葉を意識した月案、週日案について学びます。
9	指導計画と「言葉」2	児童文化財を教材とした幼児期の子どもの保育を想定し、指導計画案を作成します。
10	児童文化材を使用した模擬保育の実践1	自己制作作品を使用した模擬保育を、指導計画案にそって実践します。
11	児童文化材を使用した模擬保育の実践2	模擬保育の実践を振り返り、指導計画案の再構成に取り組みます。
12	家庭との連携と「言葉」	保育を伝える手段としての「クラスだより」や「連絡帳」について学びます。
13	「言葉」をめぐる新たな課題1	メディアの発達、早期教育等と言葉の関係について学びます。
14	「言葉」をめぐる新たな課題2	外国語教育や乳幼児期の異文化コミュニケーションと言葉について学びます。
15	全体のまとめ	本講義を振り返り、「言葉」をめぐる新たな課題についてレポートにまとめます。

定 期 試 験	期末試験は実施しません。
授 業 時 間 外 学 習	毎授業において課題を伝えるので予習 (60分)、復習 (60分) をして授業に臨んでください。
評 価 方 法	課題・提出物50%、小テスト20%、期末レポート30% 課題・提出物、小テスト、期末レポートについては、日時や場所を指定して返却し、そのときの評価結果も併せて指導します。
使用する教科書 (必ず購入してください)	近藤幹生・安川雅子・源証香他著 『改訂版 実践につなぐことばと保育』(ひとなる書房 2019)
参 考 文 献	(下記以外にも授業中に適宜紹介します。) 今井和子『ことばから見る子どもの育ちエピソードから読み解く』(ひかりのくに2021)